

いわみざわの民話

第23回

いわみざわの民話は、平成9年に「いわみざわの民話」刊行委員会が発行しました。

出かけられる神様①

ずっと昔のお話です。北海道がえぞと呼ばれていた頃です。山には大きな木が茂り、熊やきつねや鹿があそび、石狩川にも幌向川にも多くの魚がたくさん泳いでいました。土地のよい場所に僅かな人々しか住んでいませんでした。仙吉という若者もその1人でした。人々は部落の小高い丘に小さな祠をたてて氏神様として大切にしてきました。いつかのばりや太鼓が寄進され、春と秋にはお祭りがされるようになりしました。

峠一つ向こうに小さな道をつくった記念に、新しく道祖神を祀ることにになりました。そのご神体を仙吉のいる部落の神社から分身することになりました。そして秋のよい日を選んで分身するお祭りが盛大にされ、若者が新ら

しいみこしをかついで道祖神に納めにゆきました。

それから何年かたちますと、誰もお詣りをする人もいなくなりました。しかし仙吉だけはその道を通るたびに必ずこの小さな祠にお詣りをしていました。ある時はとってきた魚を供え、ある時は畠でとれた薯を供え、時には野の花を、秋には山ぶどうやこくわの実などを供えたこともありました。そうしているうちに仙吉はいつか部落の中でおもだった人を選ばれるようになり



ました。そして時には近くの部落にも招かれてゆくような立派な人になりました。

ある秋の日でした。少し遠い小さな部落に寄り合いがあり仙吉も招かれて朝早く出かけました。峠の道祖神にいつものようにお詣りをしてゆきました。むづかしい寄り合いの話は夕方おそくまで続きましたが、集まった人々は仙吉の話に興味があまとなり、仙吉も大役を果たして帰ることにになりました。夜道を提灯を頼りに峠道を歩いているうちに、いつか藪原の中の道にまよいこんでしまいました。どんよりと曇った夜空には星一つ見えません。遠くの方で何やらけものほえる声がざまじく聞こえてきました。

《続く》

第24回は「出かけられる神様②」を紹介しします。

発行・編集 岩見沢市総務部秘書課

ひとの動き		平成 23 年 12 月 31 日現在	
●住民基本台帳	人	□ 総数	89,462 人(前月比 - 22)
			男 41,954 人(前月比 - 13)
			女 47,508 人(前月比 - 9)
		世帯数	42,485 世帯(前月比 + 5)

岩見沢市役所	
☎ 068-8686	北海道岩見沢市鳩が丘1丁目1番1号
☎ 0126-23-4111	☎ 0126-23-9977
ホームページ http://www.city.iwamizawa.hokkaido.jp	
▶救急当番医ガイド	☎ 0126-23-5153
▶消防テレホンガイド	☎ 0126-24-0119

この広報紙は道産間伐材配合紙を使用しています。